

1. 科目名 (単位数)	対照言語学 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3345
2. 授業担当教員	李 芝賢			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	日本語と他の言語と共時的に比較対照する方法、および日本語の誤用分析の方法を勉強する。対照と誤用分析によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という視点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討していく。			
8. 学習目標	1. 比較対照および誤用分析に関する基本的概念を理解し、説明できるようになる。 2. 日本語学習者の習得を困難にさせる要因について分析できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容の確認を行う。 2. 学習者の母語が日本語習得に与える影響についてテーマを決めて発表する (受講人数によりグループあるいは個人発表) 3. 2の発表後のフィードバックを参考に最終レポートを作成し提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 随時、授業内容に即したプリントを配布する。 【参考書】 国立国語研究所編集『対照研究と日本語教育』くろしお出版、2002。 石綿敏雄・高田誠著『対照言語学』桜楓社、1990。 寺村秀夫他『ケーススタディ 日本文法』桜楓社、1990。 佐々木瑞枝著『日本語を「外」から見る―留学生と解く日本語の謎』小学館、2010。 ヒューマンアカデミー『日本語教育能力 (日本語教師対策) 検定試験 第4版』翔泳社、2017。 水谷信子『日英の対照研究』アルク、1988。 森田良行・村木新次郎・相沢正夫編集『ケーススタディ 日本語の語彙』桜楓社、1989。 など。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	成績評価の規準 (学習目標) 1 比較対照および誤用分析に関する基本的概念を理解し、説明できるようになったか。 2 日本語学習者の習得を困難にさせる要因について分析できるようになったか。 評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業への参加態度 総合点の 30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語学習者の用いる日本語 (中間言語) には独自の体系が存在する。この授業は対照研究を通して日本語学習者の中間言語にみられる特徴について考え、日本語教育への応用を目指す。日本語学習者の中間言語や日本語教育に関心をもって臨んでほしい。			
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	Introduction:授業概要の説明、自己紹介 対照言語学、比較言語学の違いについて		事前学習	対照言語学と比較言語学はどう違うか考える。
			事後学習	授業概要の書かれたプリントを通読する。
第 2 回	言語の類型と世界の諸言語		事前学習	配布資料 (言語の類型と世界の諸言語について) を読み、世界の言語がどのような類型によって分類されているか、理解する。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 3 回	誤用分析		事前学習	日本語は世界の言語の中でどのように分類されているか、他の言語とどのような違いがあり、どのような学習者誤用につながるのかを理解する。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 4 回	助詞の誤用分析		事前学習	日本語学習者はどのような助詞の誤用をするのか、なぜそのような誤用が生まれるのかを考える。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 5 回	「は」と「が」の誤用分析		事前学習	上級の学習者でも「は」と「が」の区別には苦労することがある。「は」と「が」の区別を難しくする要因について考える。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 6 回	他動詞・自動詞の誤用分析		事前学習	日本語学習者は他動詞・自動詞の使い分けにおいてどのような誤用をするのか、その原因は何かについて考える。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 7 回	活用・テンス・アスペクトの誤用分析		事前学習	なぜ学習者は、動詞の活用やテンス・アスペクトの誤用をするのかを考える。
			事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。

第 8 回	授受表現の誤用分析	事前学習	文法的には正しいが、語用論的に適切ではない授受表現の用例について考える。
		事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 9 回	語彙の使い方の誤用分析	事前学習	学習者の適切ではない語彙の使用は何に起因するのかを考える。
		事後学習	ワークシートに感想や要点を記入する。
第 1 0 回	グループ(あるいは個人)で発表テーマを考える。	事前学習	これまでのワークシートを見直し、発表テーマについて考える。
		事後学習	選んだ発表テーマについてまとめる。
第 1 1 回	発表テーマについて話し合う。	事前学習	発表テーマの原稿のアウトラインを考える。
		事後学習	発表テーマの原稿を作成する。
第 1 2 回	発表テーマの準備	事前学習	発表テーマの原稿に目を通し、修正の必要性を検討する。
		事後学習	口頭発表の練習をしておく。
第 1 3 回	発表、質疑応答、フィードバック	事前学習	予想される質問に回答できるよう備える。
		事後学習	質疑応答や、フィードバックの内容を整理する。
第 1 4 回	最終レポート提出準備	事前学習	レポートの大まかな構成を考えておく。
		事後学習	レポートを時間内に完成できなかった場合、最後まで書き上げる。
第 1 5 回	これまでの内容の振り返り、レポートの評価・フィードバック	事前学習	誤字脱字の確認など、レポートの最終チェックを行う。
		事後学習	これまでの授業を振り返り、深化学習が必要だと感じる部分を抑える。
期末試験			